

一般社団法人 **全国高等学校PTA連合会** 会報 No.93

一般社団法人全国高等学校PTA連合会  
 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757  
 発行人 泉 満 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール [info@zenkoupren.org](mailto:info@zenkoupren.org)



ご縁づくり～新たな明日への礎のために～



島根大会を振り返って

一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長  
泉 満

誰もないないホールでの開催挨拶、しかしデ

この1年半、新型コロナウイルスの感染拡大防止に、我々人類にとって「緊急事態宣言」下で「三密」を避け、人と人の繋がりを自ら断つしか方法はなかったということでしょう。しかし、世の中の人の動きを止めたことで、社会経済的にも子どもたちの学業にも、大きな影響を及ぼしました。これまでに壊された「人と人のつながり」を回復しつつ、新たなウィズコロナ時代の社会を創造していくことが求められています。切り裂かれた社会と教育における絆を、コロナ禍で学んだ知識、経験と技術をもって如何に再構築していくか、その探究に取り組んだ第70回全国大会島根大会、改めて主管された島根県高等学校PTA連合会並びに島根大会実行委員会の皆様、関係されたすべての方々に感謝申し上げます。

この激動の一年で得た知識や経験、技術を活用しさらなる探究、実践を進めてまいりましょう。

今や「広くて遠い」と思っていた世界は、通信ネットワークの広がりと高速化により、「6人のヒト」を介せば世界中のどの知らないヒトとも繋がるといわれています。まさに地球全体が、巨大で高速な交通手段のネットワークにより、世界のすみずみまで短時間で移動できる「スモール・ワールド」となっています。新型コロナウイルスも、このネットワークに乗って、人から人へ

と、急速に爆発的に世界へ伝播しました。この1年半、新型コロナウイルスの感染拡大防止には、我々人類にとって「緊急事態宣言」下で「三密」を避け、人と人の繋がりを自ら断つしか方法はなかったということでしょう。しかし、世の中の人の動きを止めたことで、社会経済的にも子どもたちの学業にも、大きな影響を及ぼしました。これまでに壊された「人と人のつながり」を回復しつつ、新たなウィズコロナ時代の社会を創造していくことが求められています。切り裂かれた社会と教育における絆を、コロナ禍で学んだ知識、経験と技術をもって如何に再構築していくか、その探究に取り組んだ第70回全国大会島根大会、改めて主管された島根県高等学校PTA連合会並びに島根大会実行委員会の皆様、関係されたすべての方々に感謝申し上げます。

デジタルで参加いただいた人との繋がりは、新たな時代への確信とともに2年分の想いがこみあげ、柄にもなく眼に潤いを感じました。コロナ以前の2年前、島根大会第一回実行委員会へ主催者として参加し、その席上「泉(いずみ)が満(み)つることく」大会の成功は間違いないと大見えを切つたその責任と浅はかさを自戒したこと、実行委員会の皆さま(特に大屋実行委員長、勝部事務局長)と幾度も議論した大会アジェンダ、大会史上初めてのオンライン開催への決断、大会参加様式の「ご相談」を各連合会の皆さまへ直接掛け合つたこと、等々開催にいたる歴史と想いが走馬灯のように頭をめぐりシニールな雰囲気浸らされました。この本会最大の研修交流事業である全国大会は、この度の島根大会が起点となり多様な発信手法や柔軟な参加様式の採用など、持続可能な研修交流事業として新たな様子を構築しなければなりません。本来全国大会の意義は研修・交流はもとより開催地の自然、風土、歴史を五感で体感することで得られる学びや気づきを地区に持ち帰り、新たなPTA活動へ展開することに

元大リーガーのイチロー氏は「努力した結果、何かができるようになる人のことを「天才」というならば、それはそうだと思う。人が僕のことを、努力もせず打てるんだと思うなら、それは間違いです。また、「進化するときというのは、カタチはあんまり変わらない。だけど見えないところが変わっている。それがほんとの進化じゃないですかね」とも言っています。最初は小さな歩みであっても、いつかは、突然飛躍的に、指数関数的に進歩する時がやってくるのです。その時に備えなければなりません。この激動の一年で得た知識や経験、技術を活用しさらなる探究、実践を進めてまいりましょう。

今号の主な内容

会長挨拶	1頁	第71回全国高等学校PTA連合会大会(ご案内)	11頁
第70回全国高等学校PTA連合会島根大会報告	2～3頁	賠償責任補償制度のお知らせ	12頁
地区トピックス	4～10頁		

北海道地区/北信越地区/東京地区/東海地区/近畿地区/中国・四国地区/九州地区

# 全国高P連大会 島根大会報告

はじめに

第70回全国高等学校P・T・A連合会大会島根大会は、「縁づくり〜新たな明日への礎のために〜」をテーマに八月二十五日（水）に水の都島根県松江市「島根県民会館」で開催されました。この大会は、令和二年八月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の広がりから、今年に延期されたものでした。思えば昨年春に全国大会延期が決定されたとき、一年も経てば感染も収束し、島根大会も一年後全国から一人の皆さまをお迎えし実施出来るであろうと考えていました。しかしながら、国全体を揺るがすこの未曾有の出来事は、今現在も解決のない険しい道程となっております。令和三年六月に開催した島根大会実行委員会、大会参加者・スタッフの安全を期して、大会史上初

の原則無観客開催、オンライン開催の実施に大きく舵を切ることが決まりました。それから、全国高P連に変更了承の調整、予定出演講師等、関係各機関との連絡調整と了承、会場のキャンセル、予約していた宿泊・輸送関係のキャンセル等を進めつつ、一方でオンライン開催という未知の事への取り組みを始めました。通常開催のため関係諸機関、出演者の皆さまには一年後のスケジュールを空けて待つていただいていました。そのため、オンライン開催であっても、通常開催の内容にできるだけ近い内容にすることを心がけました。分科会とそれに合わせて上演する高校生のアトラクションは前撮りをしたものをオンライン配信とし、全体会は通常開催と同じ内容にして、それをオンラインライブ配信とすることといたしました。最大の難関は、参加者募集をどうするかでした。令和三年六月にリモートで開催された全国高P連島根大会説明会で各学校単位で参加を申し込む方法が確認され、今まで用意していた個人でインターネットによるウェブ申込み方式は使えなくなりま

した。そこで各都道府県市高P連・協議会事務局（以下各県連事務局）で参加希望の学校を募っていただき、各県連事務局を通して島根大会事務局に申し込むというアナログな方式を使わせていただきました。各県連事務局には募集期間が短い中で、さらに参加費まで取りまとめていただくというご面倒なことをお願いいたしました。ごの事務局もご親切にご協力をしていただきました。各県連事務局には、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

通常開催では六会場での開催を計画していましたが、全体会は、国宝松江城が見下ろす島根県民会館の一会場で行うことといたしました。感染症予防の観点から昼食時間等も設けず半日の日程を組みました。この困難な状況の中、来ていただきましたご来賓八名、泉満会長以下十一名の全国高P連理事等の出席のもと、県内会員から人数制限して募った参加者五四名、そして、改めて募集をして集まっていたいただいたボランティアの係員五四名のお手伝いの協力を得て全体会は始まりました。

オンラインライブ配信で、昨年各県連事務局に資料提供をお願いして完成いたしました「各都道府県市連紹介」（島根大会HPでご覧になることが出来ます。）の映像が流れた後、ステージでは、島根県立松江商業高等学校吹奏楽部の演奏でオーブニングとなりました。「川の流れるように」など、なじみ深い演奏は、会場を和やかな雰囲気包みました。

飯塚大幸島根大会実行委員会副会長の開式の辞から、開会式が始まりました。全国高P連泉満会長の挨拶は、昨年就任以来初めての全国の会員に向けたメッセージとなりました。泉会長は挨拶の中で、「コロナ禍で社会が激変する中、当たり前が当たり前でなくなる。疑問に思わなかったことが課題に。あらゆる常識が聖域なく変化していく。このような複雑な時代だからこそ、P・T・Aの底力が求められているのではないのでしょうか。」と全国の会員に呼びかけました。続いて、萩生田光一文部科学大臣（当時）のビデオメッセージが流れたあと、来賓としてご臨席いただいた丸山達也島根県知事は、歓迎の挨拶の中で「私たちは、子どもたちに変化に対応できる生き力を求めてきたところであり、コロナ禍というのは、我々大人がそういった予期しな

い変化に、いかに対応していくかということ、子どもたちに見せる大事な機会、だとも思っています。」と話されました。次に開催市を代表して上定昭仁松江市長が歓迎の挨拶に立ち、記念講演で語られる小泉八雲のオーブンマインドについて触れ「今、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、出口が見えず、非常に難しい状況に世界も日本全国もありません。ただ、こういった状況だからこそ、一人一人が一緒になって連携して、この難局を乗り越えるだけではなくて、さらに強い世の中、社会にしていくことが求められていると感じております。」と話されました。



泉満会長から牧田和樹前会長に役員表彰状授与

例年なら、今年度の各表彰部門の受賞者をお招きし行う表彰式も、各部門の代表の方だけご来場いただき表彰式といたしました。会長表彰団体の部と個人の部を代表して、島根県立松江工業高等学校前P・T・A会長野々村卓也氏、役員表彰には全国高P連前会長牧田和樹氏、そして二年お待たせいたしました前回京都大会を成功裏に終えられました京都府立高P連、京都市立高P連連絡協議会を代表して京都府立高P連会長鈴木良彦氏、京都大会実行



小泉凡氏による記念講演

ブンマインドを持って、山陰の古都松江での日々を送り、松江の文化や人々の暮らしは、今の世の中で言えば「多様性」の大切さにつながることを見抜いていました。」と話され、さらに「教育における想像力の価値ということ、最良の作者や教師は無味乾燥な事実を想像のスパイスで味つけする人だというふうな、教師の定義をしています。」と、小泉八雲の教育観にも触れられました。

講演に引き続いて、松江でも育った俳優佐野史郎氏とミュージシャン山本恭司氏の公演『小泉八雲朗読のしらべ』『八雲彷徨く神々の首都 松江から』に移りました。佐野氏は、今春体調を崩されてまだ本調子でないことから、映像による出演となりました。「飴を買った女」



島根県立浜田商業高校郷土芸能部による「大蛇」上演

「鳥取の布団の話」など怪談でありながら、人の心の温かさに引き込まれました。続いて山本恭司氏のギター1の生演奏の調べは、その演奏技術によって私たちの心の中に八雲の世界が入り込む思いでした。島根県立浜田商業高等学校郷土芸能部の石見神楽「大蛇」のリズミカルでそして勇壮な演技は、大会をさらに盛り上げ、やがて閉会式に入りました。来年の大会は石川県金沢市で開催されます。会場の一角で進行を見守っていた高P連旗が大屋光宏島根大会実行委員会会長から、全国高P連泉満会長に返還され、そして泉会長から石川県高P連会長村井繁夫氏に授与されました。石川大会のPRビデオが流れたあと、石川大会実行委員長栗田真人氏が

金沢市の会場からライブ中継で来年の石川大会への参加を呼びかけました。

この後、大屋光宏島根大会実行委員会会長から大会閉幕にあたっての挨拶がありました。大屋会長は大会に携わったすべての方たちに謝辞を表したあと、「今回の島根大会の大きなテーマはご縁という言葉でした。コロナ禍で大変な思いをされている人々、心を痛める場面も多かったと思います。八月に入り、台風、長雨と非常に難しいこと、そして受け入れ難い現実を目の当たりにする場面も多かったことと思います。今回の大会により育まりましたご縁が、少しでも皆様の生きる力、明日への希望へつながればうれしく思います。」と大会を締めくくりました。最後に、今岡正和島根大会実行委員会副会長が感謝とともに閉会の辞を述べ、島根大会は終了いたしました。

**分科会**

分科会は、七月二十六日(月)から二十九日(木)に大会運営を委託している「さんいん中央テレビ本社」で前撮り録画を行いました。第一分科会は、「Withコロナにおける学校教育の形とこれから」の学びのデザイン」を予

測不可能な未来を生きていくには、第二分科会は「正しく怖がる」で創るネットとのご縁 SNS・スマホで絶対に失敗しない方法とは、第三分科会は「地域で育む未来への学び」で教育の魅力化でひろがる新たなご縁、第四分科会は、体験でつなぐ人々のご縁「人生100年時代」「不確かな時代」を生きるためのキャリアデザイン、第五分科会は、グローバルにつながる教育とご縁(SDGs)と新たな明日への礎のために、第六分科会は、未来社会に対応するための教育とご縁「主体的・対話的で深い学び」や「学校と社会の連携・協働」のあり方、

その内容は、記述出来ませんが、八月十一日に事前収録いたしました島根県立江津高等学校神楽同好会、島根県立出雲農林高等学校出雲太鼓部、島根県立三刀屋高等学校演劇部のアトラクションも含めて、是非大会HPからアーカイブ配信に入っていたら、各学校の研修会等でご活用いただければと思います。

**おわりに**

大会終了から一ヶ月が経過して、大会関係者の新型コロナウイルス感染がなかったことを確認し、本当の大会終了を実感いたしました。大会開催方法の変更から大会実施までの日が少なく、毎日が矢のように過ぎ去り、不安がいつも頭をよぎっていました。そんな中、各県連事務局から届く参加申込みの学校数の報告に添えられるお言葉が前へ進む力ともなりました。八月二十五日の一日だけでも全体会オンラインライブ配信とこの日午後から始まった分科会のオンライン配信のアクセス件数は八千件を超えるものとなりました。全体会、分科会のオンラインアーカイブ配信は、令和三年十二月三十一日までしております。各学校の研修会等にご利用いただけます。ぜひ島根県にお越しただいて、島根の自然・歴史・文化に触れていただければ喜びます。ありがとうございます。

最後にになりましたが、この大会を通じて全国高P連、各県高P連をはじめ、オンライン参加をいただいた各都道府県の会員の皆さま、島根県内のコロナ禍の厳しい状況にもかかわらずご参加いただいたご来賓・役員・県内一般参加会員の皆さま、係員として参加いただいた会員の皆さま、この苦境をはねのけてでも、何とか良い大会にするよう惜しみない協力をいただいた関連業者・地方自治団体の皆さま、たくさんの方々の支えがあって、乗り切れた大会でした。紙面を借りてお礼申し上げます。機会がございましたら、コロナ禍が終息の暁には、是非島根県にお越しただいて、島根の自然・歴史・文化に触れていただければ喜びます。ありがとうございます。



閉会式で挨拶する大屋光宏 実行委員会会長

（島根県高P連事務局長 勝部昌幸）

# 北海道地区

## 北海道高等学校PTA連合会

### コロナ禍での道高P連大会の開催とPTAの研修機会の維持

#### 大会開催までの経過

例年、道高P連大会は千人余が参加して開催され、基調講演や40グループに分かれてワールドカフェ方式で話し合う分科会

を中心に進められてきた。コロナ禍のため昨年度の札幌大会は中止を余儀なくされた、今年度の旭川大会に向けては昨年夏から準備が行われていたが、引き続きコロナ禍の

ため11月の段階で通常の分科会は不可能であることから、大人数となる4分科会を設置し、講話とパネルディスカッションで構成することとした。大会まで4ヶ月とな

#### 大会開催の基本方針

① 実行委員会を改組し主管校の旭川南高校と協力校の旭川東高校の新旧PTA役員で構成し、本部事務局の強固な協力体制のもと運営にあたる。(例年は各校教職員多数の運営協力があるが、学校はコロナ感染防止に特段の取組が必要なことから協力を求めないこととした。)

② 無参集映像配信型で開催するが、単Pや支部が研修で活用しやすくするため、長尺を避けるなど配信の分量が過大にならないようにする。

③ 参加費等は徴収せず無料配信とし、大会終了後、「大会収録」を発行し配布する。

④ コロナ対策のため、参加者を限定し、検温、消毒、換気、パネル設置等を励行し、三密を回避する。

#### 大会の実施内容

① 開会式  
(来賓なしで簡素化)

② 講演

「夢は、努力でかなえる」冬季五輪金メダリスト 葛西紀明氏

③ 分科会

分科会 I

「子どもの進路のために親ができること」講話とパネルディスカッション

分科会 II

「保護者が学ぶICT教育」事例発表とパネルディスカッション

#### 大事なのはこれから

さて、大事なのはこれからである。島根大会の配信映像も含め、これらが支部や単Pの研修に有効に活用されることにより、我々の取組は初めて日の目を見るのである。先日うれしい知らせがあった。島根大会の第2分科会の講演が、「社会と情報」の授業で生徒にも活用されたのである。このような形で活用されるのも映像配信の特性か。今後とも、より有効な活用方法を研究していきたいと考えている。



講師の葛西紀明氏を囲んで実行委員一同

道高P連大会は本会最大の研修行事であり、コロナ禍という同様の理由で2年も続けて中止することは避け、また、各単Pや支部は、昨年来講師による研修行事等が実施されておらず、本会としては研修の機会を提供する責務があることから、無参集でライブ配信及びオンデマンド配信で開催することとした。



富良野高校での島根大会の動画配信を活用した授業風景

北信越地区

長野県高等学校PTA連合会

地域や学校の特性を生かしたPTA活動紹介

長野県高等学校PTA連合会加盟校96校それぞれが、地域や学校の特性をいかしたPTA活動に取り組んでいます。今回は、そのうち2校の取組をご紹介します。

長野商業高等学校

長野県長野商業高等学校は2020年に創立120周年を迎えました。最大の特徴であり、伝統の行事として「長商デパート大売出し」が毎年



10月に開催され、今年で97回を数えます。全校生徒が「模擬株式会社長商デパート」の社員として主体となり、会社組織を構成して3日間営業します。毎年地域の方や卒業生に加え、保護者も大勢来店し、例年の来客者数は1万5千人を超えます。昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催が危ぶまれる中、育友会（PTA）としても実施に向け協力体

制をとり、実施方法の一つとして事前注文によるドライブスルー販売方式を実現しました。今年も昨年同様に徹底した感染症対策が必須であり、事前に入場チケットを配布し、保護者も含め全てのお客様に密集を避けるためのご協力をいただき、随所に生徒のアイディアを生かした感染症対策をして2年ぶりに対面販売を実現しました。売上金額は通常時の半分以下の1,300万円あまりでしたが、生徒たちがコロナ禍にすべきことを考え挑戦した「長商デパート大売出し」は、正解のない課題を解決するための大きな力を育てる絶好の機会となりました。

毎年、育友会としては温かくも厳しい来客として、商売の

難しさや対峙する生徒を支え様々な側面から見守り支援をしています。今後も地域、育友会、学校が一体となり、ともに生徒たちを支え、まもなく1世紀を経過する長商デパートがますます継承発展することを期待します。

佐久平総合技術高等学校

本校は、平成27年に佐久市内の3校を再編統合し、地域を創造する人材を育成するため、産業教育及びキャリア教育の拠点にふさわしい学科を設置した総合技術高校として誕生しました。「佐久平の明日を創る人物たれ」を校是とし、浅間キャンパスに

農業科3  
学級・工業科2学級が、白田キャンパスに総合学科2学級が置かれています。例年秋のPTA行事では、保護者の方の専門学科の授



業体験・日帰り旅行などを実施していました。かつては多くの参加者もあり、職員と保護者の研修と親睦の機会となっていました。近年は参加者集めに苦勞し企画を見直しました。

飯器で作る和風ローストビーフは、講師の方に高級和牛を用意していただき、堪能させていただきました。家庭でも早速作りた。普段、出汁から準備しての料理はなかなかできず、今回よいきっかけで美味しい和食を学ぶことが出来た」と感想をいただきました。

一昨年、公立学校共済組合長野支部の出前講座を利用した「和食料理教室」を企画、信州の名工である和食料理人を講師に招き実施しました。本校の生産物も活用した楽しい企画に例年になく多くの参加者が集まる賑やかな会となり、参加者からは「楽しい時間と美味しい料理に感謝、家庭でも是非活用したい。炊

今年度は、園芸家の方を招いて「秋の寄せ植えを楽しむ」講座の予定でしたが、今夏の感染症拡大のため、残念ながら断念しました。これからも活動内容を常に見直し、会員が積極的に参加できるように活動を考えたいと思います。

# 東京地区

## 東京都公立高等学校PTA連合会

Re...Restart, Redirect,

〜開け新しい扉〜

令和2年度はコロナの感染拡大により、やむなく中止とした東京地区高等学校PTA連合会大会でしたが、令和3年度はどうにかして実施できないか実行委員会で検討を重ねた結果、オンラインで開催する運びとなり無事に終了することができました。

言に続き、東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課長の倉富貴久様、東京都立学校経営企画室長会の小杉聖子様、一般社団法人東京都小学校PTA協議会長の岡部健作様、一般社団法人全国高等学校PTA連合会長の泉満様より順次ご挨拶をいただきました。

オープニングアクトは国分寺高校コーラス部、ダンス部、吹奏楽部のビデオ出演により華やかに開幕。開会式では薩見大会副実行委員長の開会宣

メインイベントとしてC Channel株式会社代表取締役社長の森川亮氏(元LINE株式会社代表取締役社長)より、「これからの社会人に必要な

スキル」と題して、現在お住まいの中国・上海から基調講演していただきました。日本以外のアジアIT社会はスピード感があつて変化と決断が速い。日本の企業はリスクに対する説明が長く、

いらずに時間をかけて議論するばかりで早く決めて実施することができない現状に触れ、学生の皆さんには変化の速い時代に合つた考えを持つことの大切さを認識して欲しいと訴えられました。野球とサッカーで例えると、

野球はじっくり考え監督の指示に従う「形式的」なスポーツに対し、サッカーは守備と攻撃側の交代もなく「柔軟」に対応しなくてははいけないスポーツである。現代社会はサッカーに近い

「柔軟」に近く、「柔軟」に対応し、自分で考え行動し、自分なりに結果を出せるか。それをどれだけ繰り返しできるかが重要」であり、それができないとAIに使用されてしまう人生になってしまうとのことでした。森川氏の語る「チャレンジしない人生なんてつまらない。チャレンジする人生こそが自分を成長させ、生きていく実感が湧く」というメッセージに、ネットビジネスでチャレンジする姿が見て取れ印象に残りました。講演の後半では森川氏とのフリートークで進行を務めた大学時代の同級生である都高P連内海会長との会話の中にも、現代の高校生に必要なヒントが数多くあり有意義な時間を持つことができました。今後AIに置き換えられる職業がありAIを使いこなす人、AIに言われたとおりに動く人に区分される世の中になるとの話があつた中で、総合司会者の上田氏より「私もAIに置き換えられないよう頑張ります」とユーモアのある閉幕のこぼれで講演は終了しました。

広報誌コンクールの結果発表を挟んで日野高校ダンス部のビデオ出演があり、「新しい扉に向けて」のスタートを元気づけてもらったところで、最後に坂井大会実行委員長から初の試みとなるオンライン開催に至る経緯と、参加された皆さまへ地区大会を機に新しい扉を開くようメッセージがあり、薩見副実行委員長の閉会のことば

で締めました。今回初めての試みであるオンラインによる東京地区高等学校PTA連合会大会でしたが、内海会長の挨拶にもあつた「新しい形での研修のあり方」を学生及び保護者の皆さまに提供できたのではないかと感じています。



当日の開催会場の様子  
ラーニングスクエア新橋

当日の開催会場の様子  
ラーニングスクエア新橋

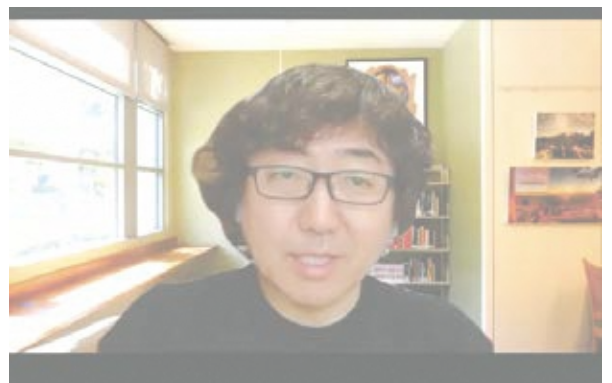
当日の開催会場の様子  
ラーニングスクエア新橋

当日の開催会場の様子  
ラーニングスクエア新橋

当日の開催会場の様子  
ラーニングスクエア新橋

当日の開催会場の様子  
ラーニングスクエア新橋

当日の開催会場の様子  
ラーニングスクエア新橋



当日の森川氏と大会ポスター



東海地区

岐阜県立岐阜城北高等学校PTA連合会

コロナ禍における歩み

〇はじめに

東海地区では毎年6月に四県の持ち回りで、東海地区高P連の総会と大会を開催していますが、

ラム大会は、オンラインで開催しました。大会で発表があったコロナ禍での取組を紹介します。

1 岐阜県立岐阜城北高等学校PTA

年3回、朝の登校時に正門と西門の2ヶ所で挨拶運動を実施しています。新型コロナウイルスの感染防止のため昨年から、プラカードを使ってお互いがアイコンタクトを交わす新しい挨拶運動となっています。元気な声が飛び交う光景はありませんが、「おはよう、体調はいいかな?」「応援してるよ!」などの見守りや激励ワードを掲げ、マスク越しでも子ども達の柔らかな表情が汲み取れると好評を得ています。



挨拶運動の様子

部と協力しながら生徒の就職・進学及び学年活動の支援をしています。5月には外部より講師を招いて保護者向けの進路ガイダンスを開催しました。また6月には、これまで学校において対面で行っていた生徒対象の「先輩と語る会」をオンラインで開催しました。

3 岐阜県立飛騨高山高等学校育友会

10月29日に育友会と同窓会の共催事業である「飛騨高山ふるさと企業・OB&生徒交流会」を開催しました。生徒と地元企業が交流するこの活動は、今年度で16回を数え、数多くの企業担当者から直接説明を聞いたり、質問したりという活動の中で、地元企業

についての理解を深めながら、就労意識を高めています。これまでは学校の体育館で一斉に開催していましたが、新型コロナウイルス感染防止を図るため各教室に設定した分散会場で、できるだけ少人数で交流し、さらに「放送及びオンラインでの開会式」・「毎時間、机・椅子等の消毒及び換気の徹底」・「交流内容に調理や試食等を含めない」等、様々な感染症対策を講じた上で開催しました。

4 岐阜県立中濃特別支援学校PTA

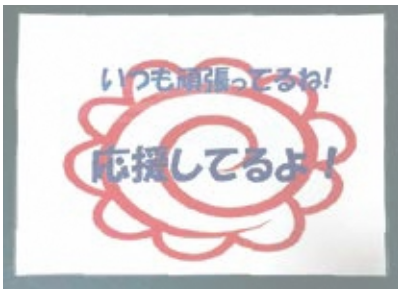
通常発行しているPTA会報に加え、研修委員会は「PTA研修新聞」を、防災委員会は「PTA防災新聞」を、それぞれ年2回発行しました。例年、実施している活動が中止になったため、見学する予定だった施設へ出向いて取材を行ったり、会員の子育てに関するアンケートを実施したりして、情報共有や子育ての悩みを会員同士で共有できる内容としました。また、学校で実施された非常食給食の取材を行ったり、非常変災時における親の心配事に関するアンケートを実施したりして、情報提供をしました。さらに、学校が主催する事業所説明会の様子や地域の防災士による講習会の様子を撮影し、それをオンデマンドで視聴できる研修を企画することで、事業所への理解を図るとともに、減災意識の向上に努めました。

〇おわりに

コロナ禍で例年のような活動が中止となり、様々なPTA活動のノウハウが次年度以降に継承できなという心配や不安の声も見受けられました。現在、各学校は、アフターコロナ、ウィズコロナにおける活動の在り方を模索し、チャレンジしているところです。

県でも「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が発令されている場合は中止するということをお断りしました。

さて、岐阜県高等学校PTA連合会において、5月末の定期総会は書面開催とし、講演会は中止しました。また、例年は400名ほどが参加する10月末のPTフォー



挨拶運動プラカード



オンラインによる先輩と語る会



飛騨高山ふるさと企業・OB&生徒交流会



PTA研修新聞

# 近畿地区

## 兵庫県公立高等学校PTA連合会

### PTCA活動のご紹介

兵庫県公立高等学校PTA連合会では、年に1回PTCA全県研究大会を開催しております。この2年は、コロナ禍により誌面発表として開催しております。

ここでは今年度の代表3校のPTCA活動を紹介させていただきます。

#### 【兵庫県立川西緑台高等学校PTA】

◆「ONE TEAM! 緑高」地域に貢献できる学校を目指して◆

地元で食品ロス削減・地域福祉などSDGs関連の活動を進める市民団体や個人の方をお招きし、その取組みを紹介する講演会を学校と協力して企画し、開催しました。コロナの緊急事態宣言下オンライン形式での開催となりましたが、保護者・生徒、そして地域の方と一緒に意見交換や「SDGsミニ宣言」を行うなど、暮らしに身近なSDGsに気づく貴重な時間となりました。多様な価値の実現を



目指し、地域に貢献する。困ったときはお互い様の精神で地域福祉に取り組み。食品ロス削減と地域の支え合いの輪をつなげるフードドライブ。本講演会は、後日YouTubeにて申込者に限定配信されます。(PTCA支援活動の中で、学校の環境整備、子どもの安心・安全を守る取り組みを通して家庭・学校・地域との関わりが深まり、更にフードドライブや制服・体操服リユース活動などを通して、「もったいない」を「ありがたい」に変える「地域循環」に意識が変わることが期待されます。



#### 【兵庫県立水上市高等学校PTA】

◆地域産業への理解を深め、地域に開かれた学校づくりをささげる◆

学校で開催される行事の運営や環境整備等の活動を通して保護者、地域住民が学校教育や行事に参画しようとする意識を高めることを目的とした活動をここではその一部を紹介します。

#### ○就職支援事業

3年生の就職希望者を対象に、企業人事担当者やPTAによる模擬面接を行ってきました。企業人事担当者や職業安定所及びPTAの学年対策部を中心に、本番さながらの面接をすることで、子どもたちが面接力を高め就職試験に臨めるよう手助けをしています。



#### ○就業体験実習支援事業

本校では2学年時、長野県での就業体験実習を行ってきました。家族の元を離れ、一週間程度、農家さまのお宅にお世話になり、農業実習に取り組み子どもたちを励ますために、PTAで激励団を結成し実習先を訪問してきました。激励団は、受入農家さまへのお礼や、受け入れ行政機関等への挨拶を通じて、事業へのご理解とご支援のおかげでこの実習



が成り立っていることに感謝するとともに、子どもたちに「開拓者精神」の心が育まれていくことを実感しました。

#### 【兵庫県立小野工業高等学校PTA】

◆コロナ禍にできること

「ものづくり」を通して地域とともに◆

地域との交流や各種の活動が制限される中で、小野工業高校の取り組みをより多くの方に知っていただくとともに、「ものづくりの学校」として、その楽しさを広める機会として、夏休みに開催されたオープンハイスクールにおいて、近隣の中学生を対象に工業高校ならではの実習を体験していただきました。(生活創造科)

家庭に関する専門科目を学ぶ生活創造科では、食物「マジパン細工」簡単なデコレーションを体験しよう、被服「リーフのコースター製作」手縫い・ミシン縫いを体験しよう、情報「コーージュ」お気に入りの画像を使って缶バッジを作ろうの3つの分野の体験を企画し、実施しました。学科紹介では、展示作品やプレゼンテーションによる説明の他、生徒が



学科紹介パンフレット  
アマビエストラップ  
PTA通信「たくみ」

製作した学科紹介パンフレット、アマビエストラップ、PTA通信「たくみ」とともに配布しました

#### (電子科)

「工作体験教室」を実施しました。電気工事(屋内配線工事)の体験教室を電子科生徒が中学生に教える形で行い、一般家庭で使われているスイッチや電線を使用し、今では珍しくなった裸電球を点灯させる回路を体験しました。両日で、139名の中学生と保護者・教員に参加していただきました。





中国四国地区

香川県高等学校PTA連合会

香川県高等学校PTA連合会の活動紹介

香川県高等学校PTA連合会は昭和26年1月に発足し、今年創立70周年を迎えました。当初の会費は、学校割2千円、生徒割3円との記録が残っています。

これまでに、昭和39年を初めとして計7回の中国・四国地区高P連大会を、平成16年には第54回全国高P連大会香川大会を開催しました。

また、昭和57、58年度は鎌田道海氏が、令和2年度からは泉満氏の2名が、当連合会から全国高P連会長に選出されています。

今回は、平成30年から始めた「香川県高P連研修会」と、その「研修会」開催のきっかけとなった「大学・専門学校訪問研修会」を紹介いたします。

大学・専門学校訪問研修会

この研修会は平成6年に第1回を実施し、コロナ禍直前の令和元年末までに26回を数えます。京都方面・大阪方面・兵庫方面の3つのエリアをロー

ーションし、一泊二日目の日程で4校程度をバス2台で訪問しており、例年保護者及び教職員70名程の参加があります。平成26年と29年には立命館大学びわこ・くさつキャンパスを訪ねました。そこで、学校紹介の説明をしてくださったのが、香川県立高校出身でもある入試センター次長の熊谷秀之氏(当時、入試広報課長)でしたが、その内容は学校紹介に留まらず、今後社会で生きていくうえで重要な事柄を、実に明るく歯切れのいい話ぶりで説いてくださいました。

このように経緯で第1回を開催し、熊谷氏を講師に第1部は「講演」、第2部では保護者代表2名、高校生2名、現職教員1名にも登壇願う「ディスカッションと会場交流」を行いました。

続いて、令和元年第2回の講師には、当連合会顧問泉満氏の地元小学校区におけるPTA仲間である、小早川龍司弁護士にお願いしました。

小早川弁護士は弁護士事務所2代目ですが、ご尊父もご自身も検事をご経験ののち弁護士として活躍されており「地元ヤメ検弁護士が語る!!」をキャッチフレーズに、参加者を募りました。そして、第一部は「講演」を、第二部では「講演」と泉満氏の進行により「会場との意見交換」を行いました。

また、当時ご息は司法修習生として研修中、ご息女は司法試験合格を目指して猛勉強中でした。親子3代に渡って地元県立高校を卒業後、中央大



大学・専門学校訪問研修会



第1回高P連研修会 (ディスカッションと会場交流)



第1回高P連研修会



第2回高P連研修会 (会場との意見交換)

高P連研修会はまだ2回しか開催できておりませんが、新型コロナウイルス感染症の1日も早い終息を願いつつ、香川県高P連行事の大きな柱となるようにしっかりと育てて行きたいと思っています。

香川県高P連研修会

前段の立命館大学熊谷氏のまるで講話のようなガイダンスに、多くの参加者が感銘を受け、氏は地元高校出身者でもありぜひ香川でもう一度話が聴きたい、参加できなかった人にも聴かせてあげたい、との要望を受けて平成30年9月に第1回香川県高P連研修会を開催する運びとなりました。

このように経緯で第1回を開催し、熊谷氏を講師に第1部は「講演」、第2部では保護者代表2名、高校生2名、現職教員1名にも登壇願う「ディスカッションと会場交流」を行いました。

続いて、令和元年第2回の講師には、当連合会顧問泉満氏の地元小学校区におけるPTA仲間である、小早川龍司弁護士にお願いしました。小早川弁護士は弁護士事務所2代目ですが、ご尊父もご自身も検事をご経験ののち弁護士として活躍されており「地元ヤメ検弁護士が語る!!」をキャッチフレーズに、参加者を募りました。そして、第一部は「講演」を、第二部では「講演」と泉満氏の進行により「会場との意見交換」を行いました。

また、当時ご息は司法修習生として研修中、ご息女は司法試験合格を目指して猛勉強中でした。親子3代に渡って地元県立高校を卒業後、中央大

学法学部に入學され、大学からは親子三代表彰を受けられたそうです。第3回研修会には、当時の文科省総合教育政策局長の浅田和伸氏にお願いしてお願いしました。局長も香川県の出身であることから、全国高P連大会京都大会のレセプションでお会いした時から、近いうちに香川県での講演を、とお願

いしていただくものです。しかしながら、コロナ禍のため令和2年さらには延期した令和3年まで中止せざるを得なくなり、浅田氏の研修会は未だ実現に至っていません。以上のように、講師には地元高校出身であり、それぞれの分野の第一線で活躍の方々をお願いしてきました。

# 九州地区

## 福岡県公立高等学校PTA連合会

### コロナ禍の中、開催できた指導者研修会！

福岡県公立高等学校PTA連合会（以下、福岡県高P連）は、県内124校の公立高等学校（県立中学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校を含む）のPTA会員で組織されています。県内を4地区に分けて各地区連合会での活動も活発に行われています。

福岡県高P連の定期総会で承認された役員で、4つの委員会（総務、健全育成、進路対策、調査広報）を構成し活動しています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により定期総会は書面決議、指導者研修会は中止、役員会や委員会の開催減など、ほとんどの活動ができない状態でした。その中で、調査広報委員会は、例年実施している「広報紙コンクール」を実施し、5紙を九州地区高等学校PTA連合会に推薦し、3紙が入選するという初めての好成績をあげることができました。広

報紙は、PTA活動の活性化・推進に重要な役割を果たしています。福岡県高P連では、調査広報委員会の活動をおおして広報紙の更なる充実を図っていきたいと思います。また、各地区では、時間を短縮し参加者を制限するなどの感染拡大防止対策を行い地区別研修会が実施されました。

令和3年度についても、昨年と同様に新型コロナウイルスの感染拡大のため定期総会が書面決議となり、8月開催予定だった指導者研修会が延期となりました。



Web配信準備



書道パフォーマンス



シンポジウム発表

2年連続で開催できないことを避けるため、令和3年10月20日の開催に向けて新型コロナウイルス感染の状況に関係なく開催できるよう準備を進めることにしました。そこで、会場に発表者・参加者が集まらない場合は、Webでの配信により研修会を開催することができるように、発表予定校に動画の撮影を依頼しました。

今年、「緊急事態宣言」が解除されましたので、会場での参加（131名）と準備していたWebでの参加（30校）のハイブリット開催となりました。内容は、生徒の実践発表として筑豊高校の「書道パフォーマンス」、生徒の調査研究内容を武蔵台高校、古賀成館高校から発表してもらいました。なお、筑豊高校と武蔵台高校については学校で撮影した動画を流すことでの発表となりました。また、シンポジウムでは3校のPTAから発表をしていただきました。初めての取組で、いろいろと苦労もありましたが開催することができました。

福岡県教育委員会・福岡県教育センター等関係者の皆様に感謝しています。今回の開催で気づいた点などを改善し、次回に繋げたいと思います。また、この研修会終了後に書面決議となった定期総会時に実施できなかった退任されたPTA会長などに対する感謝状の贈呈式も実施しました。昨年は、各学校に送り、お渡しすることしかできませんでした。今年は、時期は遅くなりましたが直接お渡しできる機会を作れてよかったです。

今年も、第1回はWeb開催でしたが、第2回は会場に集まって開催される予定になっています。PTAの活動は、直接コミュニケーションを取りながら色々な課題に取り組んで行くことが重要だと思っています。コロナ禍で新しい形で取り組むのもやむを得ないと思いますが、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、従来の生活が戻り以前のように直接コミュニケーションを取りながらの活動ができるようになることを望んでいます。



# 『輝く未来への礎』

親から始める新時代の教育

## 第71回 全国高等学校PTA連合会大会 石川大会のご案内



### 大会趣旨

世界を震撼させてきたパンデミックは、私たちが作り上げてきた社会があまりにも脆弱で、日常当たり前に行えていたことが大きくなり、今までの環境が実はどれだけの難いことだったかを気付かせました。さらに、インターネットを活用した働き方や授業等、ニューノーマル(新しい日常)への移行を急加速させました。今後も頻繁に起こり得る気候変動や大震災、新型コロナウイルスの流行など、それまでの常識を覆す新たな事態に対応していくためには、人と人が直接会えなくても、ネットワーク媒体を介してしか会話ができなくても、その繋がりの中から持続可能な共生社会を築くことのできる意識変革、社会構造の変革に取り組みつつける必要があります。そのような視点でも教育を考えたいかなければなりません。

石川大会では、「輝く未来への礎」をテーマとしました。わが国の若者が抱える課題として以前から一自己肯定感が低い、「消極的で内向き志向」といった点が指摘されてきました。これについてはすでに学校でも改革が進められているところですが、子どもの自立に最も責任を負うべき親自身は、まずは真剣に向き合うべき課題です。

「子は親の鏡」と言われます。まずは親自身が子どもにこうあって欲しいと願う姿を親の背中で見せ、道標となることが求められているのです。

新時代の教育とは、まず私たち親が希望の持てる未来社会へのビジョンを持ち、自らが未来への礎となつて主体的に行動し始めることであり、それが教育改革を進める学校を後押しし、地域社会、わが国そして世界の発展につながるものと信じます。

石川県は、古より東西文化を繋ぐ回廊として発展してきた加賀、里山里海と呼ばれる豊かな自然に恵まれた能登からなる県です。ここでは様々な地域の人と人とが縁を結び、心を紡ぐことによつて、独自の文化を伝承、創造してきました。出合いこそが文化ともいえるここ石川の地に全国のPTA会員が3年ぶりに一堂に会し、輝く未来への礎のため、共に一歩前に踏み出しましょう。



【大会シンボルマーク】

伝統文化・温泉・食など 魅力たっぷりの「いしかわ」に来まっし！

【大会ポスター】



第71回全国高等学校PTA連合会大会  
2022石川大会

石川大会 Webサイトはこちらから



第71回全国高等学校PTA連合会大会  
2022石川大会

日程 2022年 8/25(土)〜26(日)

会場 いしかわ総合スポーツセンター、石川県産業展示館

主催/全国高等学校PTA連合会 企画/石川県高等学校PTA連合会



全国高等学校PTA連合会大会石川大会  
皆様の参加をお待ちいたしております

石川県高等学校PTA連合会



## 全国高等学校PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？  
全国加盟高校の2校に1校が加入しています。

### 掛金

年間 **400円** (保険料 391円 + 制度維持費 9円) × 生徒数

※補償開始日が令和2年4月1日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

### 補償期間

令和3年4月1日～令和4年4月1日

補償の範囲と支払済高額事故事例 <生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります>



補償の範囲	補償限度額	事故発生件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 <sup>(注)</sup> <b>1事故1億円</b> 自己負担額1事故5千円 (注) 対人事故・対物事故合算して1億円が限度となります。	99%超
2. PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任保険)	対人 1名5千万円・1事故5億円	1%未満
	対物 1事故5千万円 自己負担額1事故1千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物 加害者1名 10万円 保険期間中 500万円 自己負担額1事故5千円	

年度	支払金額 (千円)	事故内容
H19年度	87,915	無灯火の <b>自転車</b> で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 <b>【過去最高支払金額】</b>
H23年度	40,580	<b>自転車</b> で歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。
R1年度	47,549	<b>自転車</b> 走行中、対向の歩行者を見て右に避けたところお相手歩行者も同じ方向に避け衝突した。
R2年度	44,352	マスコミ報道事案／免責5000円／重複他社損保ジャパン社あり

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、**自転車事故に限らず国内における事故を2.4時間、幅広く補償しております**☆

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。  
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

### ●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会  
東京都千代田区神田佐久間町2-1  
奥田ビル301号  
TEL.03-5835-5711

### ●引受保険会社

引受幹事保険会社	東京海上日動火災保険株式会社 (担当:公務第二部 文教公務室)	TEL.03-3515-4133
共同引受保険会社	AIG損害保険株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社	TEL.03-6848-8480 TEL.03-3259-4061 TEL.03-3349-9588

AIG 損保  
一般社団法人 全国高等学校PTA連合会後援  
**AIG 高校生外交官プログラム**  
(参加費無料)  
<http://www.highschooldiplomats.org>

「育てたいのは、  
子供たちの未来。」  
私たちはAIG 高校生外交官プログラムを協賛しています。

**AIG損害保険株式会社**  
tel:03-6848-8500 <https://www.aig.co.jp>

立ちどまらない保険。  
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の  
安心

クルマの保険  
住まいの保険  
火災の保険

www.ms-ins.com

挑戦の  
数だけ、  
保険が  
ある。

To Be a Good Company

東京海上日動

SOMPO  
ホールディングス  
安心・安全・健康のテーマパーク

損保ジャパン

損保ジャパンは  
SOMPOホールディングスの一員です。  
損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
TEL.03-3349-3111  
<https://www.sompo-japan.co.jp/>



リサイクル適性<sup>(A)</sup>  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。